

第 14 回すばる小委員会議事録

日時：2月19日（火）午前11時10分より午後5時00分（JST）

場所：国立天文台 解析研究棟 TV 会議室（ハワイ観測所及び東北大と TV 会議接続）

出席者：有本信雄、伊藤洋一、岩室史英、片坐宏一、小林尚人（午後3時まで）、

土居守、浜名崇、山下卓也（以上三鷹）

臼田知史、高遠徳尚（ハワイ観測所から TV 会議参加）

市川隆、山田亨（東北大から TV 会議参加）

欠席者：定金晃三、高田唯史、林正彦

書記：吉田千枝

1 多天体分光（MOS）観測の pre-imaging について（寺田 資料 1）

第2期観測装置群の立ち上がり時期を迎え、DDT（所長裁量時間）の余裕が全くない状況である。1月のユーザーズミーティングでユーザーの理解も得られたので、MOSの共同利用観測者に、次のMOS観測の pre-imaging のための時間供出をあらかじめお願いすることとしたい。

FOCASについては30分、MOIRCSについては60分供出していただきたい。

C：観測終了前の時間を供出するというが、いつを観測終了と定義するのか？

薄明でも観測できる場合がある。

C：観測が可能な時間、薄明を含めた夜明け前が観測時間の最後ということだろう。

C：観測終了直前と限定する必要はないのでは？

C：だが観測時間の真ん中を取られるのはきつい。

C：その点は運用の際に観測所と観測者間で調整すればよい。

Q：MOS観測のときだけで十分時間が取れるのか？

A：基本的にはDDTを使わないと足りない。

Q：観測の最後の晩だけ時間を供出するのではなく、毎晩なのか？

A：毎晩だが、必ず取る訳ではなく、取られても文句を言わないでほしい、という意味だ。

委員長：この pre-imaging 時間の供出は今後すばる運用上のポリシーとする。

2 戦略枠審査

TACによる最終評価報告書の読み合わせを行い、提案チームからの体制作りに関する報告書、およびTAC/レフェリーからの疑問に対する提案チームの回答書を参照しながら自由討論の形で審査を進めた。特に争点となったのは、TACも指摘している通り、系外惑星探査と原始惑星系円盤探査を併せて行うことの意義だが、審査の詳細は割愛し、戦略枠の運用方針に関わる部分のみを以下に採録する。

2-1 一般共同利用への影響、分野間の調整の必要性について

- C：一般共同利用へのしわ寄せを減らすために、夜数を減らす必要があるだろう。
- C：戦略枠をやる以上、一般共同利用への影響はある程度やむを得ない。それを承知で戦略枠導入を決めたはずだ。
- C：公募要項に示した「戦略枠の夜数は、全共同利用夜数の4分の1を越えない」というのは妥当な線だろう。
- C：一般枠の採択のボーダーラインのときだけ、TAC裁量で分野を考慮に入れてはどうか？応募夜数の少ない分野は、全部いいプロポーザルでも採択されずに落ちてしまう。
- TAC委員：小さいカテゴリは他のカテゴリとグループ化して審査しているので、必ずしもそうならない。
- 委員長：では戦略枠の夜数が4分の1に収まっている限りは、分野間の調整をしないということ「SACポリシー」としてよいか？（委員の同意）
- C：同分野よりも、インテンシブにしわ寄せがいくのではないか？
- C：ざっと見積もると、各セメスタ120夜で、戦略枠が30夜とすれば、残りの共同利用は90夜。そこから10夜のインテンシブを取るとしたら、一般枠は80夜になる。

2-2 中間審査について

- C：とにかくやってみないとわからないので、まず走らせてみる。その上で中間審査が大事だ。
- C：最初の中間審査をいつ、どのような観点で行うか決めておく必要がある。
- C：たとえば2年後でどうか？
- C：1年ではまだ先の見通しが立たないだろう。
- C：公募要項には毎年中間審査をするとあるが、1年目は報告してもらおう程度で、2年

目に見直しを含めて検討してはどうか？

C：装置の性能評価はいつできるのか？

副所長：楽観的にみて9月だろう。8月に公開する A0188 のエンジニアリングが終わってからになる。

Q：HiCIAO は PI 装置だが、PI の了解を取れば一般共同利用に使用申請できるのか？

A：できる。

C：申請前に PI にコンタクトを取るので、ターゲットの重複についてもそこでチェックがかけられるだろう。

= 結論 =

Tamura et al. の戦略枠提案 (SEEDS) を採用内定とする。HiCIAO+A0188 の性能評価ができた段階で、所期の性能を達成している場合は正式採用とする。

性能評価にあたっては、装置チームのほかに、客観的な判断ができる評価者を SAC が委嘱する。

提案チームに対しては、さらにターゲットの検討を進め、精選した上で観測実施の優先順位をつけることを求める。

正式採用となった場合、観測開始後 2 年間は提案書どおりの観測夜数 (年間 24 夜) をアロケートするが、2 年後に厳正な中間見直しを行い、特に円盤探査については戦略枠としての成果が見込めない場合は打ち切りもありうる。

戦略枠への専念義務については、PI にのみこれを課す。

(別紙「戦略枠提案 SEEDS に関する審査報告書」参照)

3 次期 SAC 委員候補の推薦

光天連からの推薦を受けて、次期委員候補者 15 名を確認した。候補者の内諾を得た上で 3/11 の光赤外専門委員会に諮る。

(追記 新任候補者 1 名が辞退したため、補欠の候補者に依頼して 2/27 までに全候補者の内諾を得た。)

4 Keck/Gemini との時間交換について

S09A 以降、現行の ToO 原則禁止と Gemini との交換夜数増についてどうするか、検討依頼が来ている。

担当者が不在で詳細の確認ができないこと、またまだ時間があることから、次回以降に検討することにする。

5 プリンストンとのMOU案について（委員長）

委員長：ほぼ最終版の原稿で、日米双方の法律に照らして問題がないかを確認する作業の段階である。

Q：プリンストン側の使用夜数の数え方はどうなるのか？数え方で揉めそうだが。

A：今回のMOUとは別に、夜数のカウント法について明確にするプロセスが必要だろう。

今ははっきりしているのは、プリンストン大の研究者がPIとなる個別の共同利用は含めず、戦略枠は含めるということだ。今後発足するCollaboration Council（協力協議会）で詳細を詰めることになるだろう。

=資料=

- 1 SEEDS プロポーザル
- 2 SEEDS に関する TAC 最終評価
- 3 SEEDS 体制作りに関する報告書
- 4 次期 SAC 外部委員候補推薦（光天連）
- 5 プリンストンとの MOU 最終案（席上配布）
- 6 MOS 観測の pre-imaging 時間の確保について
- 7 Keck/Gemini との時間交換での ToO 観測について
- 8 Gemini との交換時間数について

追加資料

- ・ SEEDS PI から TAC への回答書
- ・ 現 SAC 委員名簿